

さぬきの輪TIMES

OB・OGと6冊目



協力隊のイマとミライ



地域おこし協力隊

人口減少や高齢化等の進行が著しい地方において、地域外の人材を積極的に受け入れ、地域協力活動を行ってもらい、地域力の維持・強化を図っていくことを目的とした制度。

瀬戸内海に浮かぶ香川県でもたくさんの地域おこし協力隊が、様々な活動を通じて地域に貢献しています。

「地域おこし協力隊って、なんだ？」
この問いに対する明確な答えはどこにもありません。
答えがあるとするならば、それぞれの活動そのものがそれに代わるものだと思います。

“それぞれの活動を
知っていただくことを通じて、
地域おこし協力隊を
より身近に感じていただき、
さらに地域との連携を深めていきたい”

そんな思いから、
さぬきの輪TIMESを製作しました。

Contents

04 特集

「地域おこし協力隊OB・OGのその後」

06 直島町 08 塩江町

10 琴平町 12 佐柳島

15 あとがき



地域おこし協力隊OB・OGのその後

「卒業した後は何をやるの?」とよく聞かれる地域おこし協力隊。起業するのが普通? いいえ、そんなことはありません。人によって様々な人生を描くことができるのです。今回は3年の満期を終えて県内に定住しているOB・OGにお話を伺い、人生の多様性と可能性を改めて感じることができました。



元・高松市塩江町地域おこし協力隊
淵崎 義之(高松市出身)
2015年8月~2018年3月

協力隊になったきっかけ & 活動内容は?

協力隊以前の仕事は研究開発職で、その職も私は嫌いでなかったのですが、ただ「もともと人と付き合う仕事に就いたら、自分って何か変わるのかな?」と思っていたときに、ちょうど募集が出ていたのがきっかけです。着任時に開いたフレゼン大会で塩江の方の意見を聞いて、できるだけ多くの要望に応えられるように動いていました。また、小学校授業の環境で蕎麦や竹あかりを一緒に作り、存続の危機にある郷土野菜の炭谷ゴボウを栽培したり、季節ごとにある4大祭り(桜、ホタル、花火、もみじ)の他、協力隊主催イベント「スプリングフェスタ」を企画運営したり、あつという間の三年間でした。

今後の目標はなんですか?

今後は高松市内の社会福祉関係に勤務していますが、協力隊の時に培った関係を今後も続けていきたいので塩江の青年部に参加したり、イベントで協力していたいた劇団に入ったり、今も塩江に入り込んで仕事もプライベートも全力でやっています。

活動中大変だったこと & 良かったこと

着任当初、知り合いも全然いなくて、孤独を感じていたなあ。振

り返してみると、その孤独感が一番きつかったかな。でも活動を通していくうちに知り合いが増えていって、今では休日でも「あーちーいるんやろ?」って連絡がきたり、そういうのが嬉しいですね。性格も変わったような気がします(笑)

今の仕事に早く慣れて色々な人の役に立てるようになりたいです。塩江の方々にもホントに支えてもらった三年間でした。だから、まだ塩江に住んでいたい。今は仕事が一番優先だけど、時間ができたら、塩江で何かできたらいいなって思っています!そんなので、あとで後悔しないように毎日、全力で過ごそう!つすね!

あと、勤務先で第1回目のまつりを開催します!「こども祭りにつすね(笑)」と思いつつも、企画した人の想いを聞いて、「成功させたいなって思っています。今回も全力でいきます!」

協力隊になったきっかけ & 活動内容は?

東京では長年ギラリ勤務とアート関連の活動をしていましたが、東日本大震災を機に生活を見直し始め、子育てや暮らしを考えたとき、都市部での生活をやめて地方へ行こうと思えました。協力隊のことはふるさと支援センターで教えてもらいました。着任してすぐは色々な所に顔を出して、知り合いを増やしていききましたね。地域の方と話していくうちに、地元の方が意外と知られていないことに気付いて、「地元の食材を通して地域に愛着を持ってもらいたい」という話をしていたら共感してくれる人が増えて、地域の方とイベントを開催したり、高松の「さぬきマルシェ」に一緒に出店して、地元の食材をPRすると同時に、消費者と交流することで生産者にも刺激を受けてもらったり。ちょっとしたきっかけで色々な人と繋がっていくことができたのは嬉しかったですね。

今どんなことをしていますか?

「ミカタ」という屋号で有機農家をしています。今は子育てが主なので農業は夫が一人でしていますが、パッケージデザインをしたり家で出来る事を行っています。ゆくゆくはもっと手伝うと思います。東京には好きな場所も友人も多いのでたまに帰省しています。子供にも地方と都市を楽しんでもらいたいし、このバランスが今はすごく心地良いですね。

今後の目標はなんですか?

暮らしの中で色々経験していきたいのと、「ミカタ」として、農業だけではなくて有機的な生活とか生き方とか価値観みたいなものを実践、発信して、それが誰かにとって多様性の一つになればいいなと思っています。



元・さぬき市地域おこし協力隊
舟越 彩子(山梨県出身)
2013年8月~2016年7月

活動中大変だったこと & 良かったこと

当時まだ県内でも協力隊の存在が認知されていない中でフリー

ミッションが入ったので、「何かしてくれる人が来た」という過度な期待と、生活する上では人間関係が最初は大変でした。でも色々動いていくうちに、仕事抜きで価値観が近い人や親しくしてもらえたりと出会えたのは良かったです。卒業してもここに住むことができているのはそういう方々のおかげです。



「ヒビノミカタ」

他にも デザイナー不動産開業、公務員、雑貨輸入業、兼業農家、民間就職、ゲストハウス&カフェetc...先輩隊員たちは様々な人生を歩んでいます!

「さぬきの輪の集い～行政&協力隊座談会～」を実施しました!

2017年12月、「OB・OGに学ぶ地域おこし」をテーマに、香川県内で地域おこし協力隊の任期を終えたOB・OGにお越し頂き、現役時代の活動や卒業後の心構えなどについてお話いただきました。意見交換会では「現役時代にはどんなことを考えていたのか?」「今は何しているのか?」「スケジュール管理はどうしていたか?」「起業するための準備は?」などなど、普段は聞けないOB・OGとの有意義な意見交換ができました。これからも県内から地域おこし協力隊OB・OGは増えていくので、今後に繋がる連携作りも進めていき、今回のような機会を継続して設けていきます。



協力隊になったきっかけ & 活動内容は?

地元の市役所で働いていたときに、もともと自分がブレイヤーになつて色々やってみようかなと思っていたのがきっかけです。その際、県庁で募集していたのが香川県ともう一つの県だったので。自分のスキルをより活かせるような活動内容で募集していた香川県に決めました。

今後の目標はなんですか?

活動としては大きく3つの柱があつて①「さぬきの輪 T I M E S」さぬきの輪 W E B」などで県内協力隊の情報色々な人に知ってもらうための P R 活動、②協力隊と行政職員のネットワーク構築のために定期的に開催していた「さぬきの輪の集い」、③協力隊を導入するサポートです。協力隊の採用は、給料でも仕事内容でも差別化は図りにくい。むしろ、一緒に仕事をするかや、地域住民にどれだけ熱意があるかを伝える方が大切だと感じて、それが溢み出るように活動をしていました。それが今の起業に繋がりましたね。

活動中大変だったこと & 良かったこと

全国規模で友達が増えたことは、良かったですね。現地にいったときに再会したりっていうのもあるだろうし、これからの楽しみです。

今どんなことをしていますか?

「ヒトデ」という新しい職業紹介のサービスを行っています。ヒトデを通じて色々な人に喜んでもらいたいですね。人を通して紹介することで求人票だけではわからない社風や雰囲気も伝えたり、入社後のフォローもしています。

今後の目標はなんですか?

「人を見つける私の仕事」っていうのがヒトデのコンセプトなんです。それが体現するようなサービスをしっかりと作ってきたいです。転職が当たり前になってきている中で、「給料」や「休み」だけでなく、「誰と一緒に働くか」や「どんな社風で働くか」を大切にしたいです。そうすることで、これまで選ばれにくかった地方の中小企業が選ばれる可能性が高くなると思うんです。ヒトデを通じてたくさんの方が自分らしく生き生きと働くためのお手伝いをしていきたいですね。



人を見つける私の仕事「ヒトデ」



元・香川県庁地域おこし協力隊
秋吉 直樹(神奈川県出身)
2015年8月~2018年3月

直島町

naoshima

平松 茉奈

— 積極的に発信する —



profile

平松 茉奈

岡山県の高校を卒業。京都の芸術系の大学で観光デザインを学ぶ。自分が観光系の仕事に就きたいと思ったルーツが直島にあったため、大学を中退し協力隊に応募。2018年、直島町民と島内結婚。趣味は、食べること(特に魚)、美術館巡り。

【活動内容】

観光関連
ポスター&フライヤーデザイン

出身地：岡山県
活動地域：直島
活動開始年月：平成29年4月



協力隊になったきっかけは？

高校時代に瀬戸内国際芸術祭で豊島や直島を訪れたときに、当時土産が少なく「お土産とかデザインできる人いないかなあ」と地元の人と話しているのを聞いて、そういうスキルが求められることがあるんだと知りました。昔から絵が得意だったこともあり、観光と関われるような仕事をしたいなと思い始めました。自信を持って「私これできます」と言える技術が欲しかったので、お土産のデザインができるような観光デザインを芸術大学で学んで、直島にきました。しばらく直島で仕事を探していたら、たまたま協力隊OBの山岸さんと知り合えて、ちょうど協力隊の募集をしていたのですぐに応募したんですよ。

直島が良いと思ったのは、私にとってちょうどよい島の大きさで実家の岡山にも近いし、まちづくりや観光系で働きたかったから。必要と



デザインしたポスター



得意なデザインスキルを活かして町内の観光ポスターやガイドマップなど様々な媒体を手がける。取材を通して島民の方とも仲良くなり、地元ならではの、観光客が知りたいと思う情報を伝えることを心がけているそう。

どんな活動をしていますか？

現在は観光関連の業務を主に、デザインのスキルを生かしてポスターを作成したり、Facebookを使って島内の観光情報だけでなく、島内にある企業の紹介や、移住希望者目線で、気になる島での暮らしに関する情報や求人情報などを発信しています。

週に二日は宮浦港にある観光協会に、お土産の販売の手伝いなどもしています。協会で観光に来られた

今後どんなことをしていきたいですか？

直島では季節によって営業時間が異なる飲食店が多いので、朝食の営業をしているお店や夜遅くまでやっているお店など、今あるガイドブックとは少し違う視点でまとめたいと思っています。現在作成中です。ランチの情報はずで結構あるのですが、そういう情報を知らずに朝からコンビニに行ってしまうたりするのは、もったいないですからね。

また、来年は三年に一度の「瀬戸内国際芸術祭」が開催されるので、それに向けてPR活動にも力を入れていきたいです。島内にあるアートの作品を自分で撮影して、オリジナルのガイドブックもデザインしていきたいと思っています。あとは、「島猫フォトブック」もできたら作ってみたいですね。島内のどこにどんな猫がどれだけいるとか、全然まだ構想段階ですけど(笑)



近年増加している外国人観光客対応のためALTの先生を招き、島内の接客業に携わる方へ英語での接客おもてなし研修を実施。平松さん自身も英語での観光案内をするため日々勉強中。



直島の玄関口宮浦港にある観光協会では、多くの外国人観光客も訪れる。相手のニーズを考えて丁寧案内する平松さんに対応してもらえたら直島観光も一層楽しめそう。



気付いたことやアイデアが浮かんだらすぐにデザインに書き起こし、役場で練り直す、という作業を繰り返して、ブラッシュアップしていく。



任期後の定住に向けて現在栽培しているハーブ園では「イングリッシュラベンダー」の無農薬栽培に挑戦中。地元の方にもラベンダーに興味を持ってもらい、塩江をラベンダーで紫色に染めたいと目を輝かせている。

塩江町

shionoe

村山 淳

— そこに根付くこと —

協力隊になったきっかけは？

大学院修了と時期を同じくして、東京の過密社会に耐えきれず、妻と一緒に地方移住を決めました。「島と山のある田舎」を探していて、東京都道府県会館で香川県のブースを訪ね、塩江を教えてくださいました。私の故郷も塩江と似て、山あい、谷間の集落で、海まで車で40分くらいのところだったので、気に入って応募しました。仕事そのまま、その地に根付くための活動になるというのも理由のひとつでした。

どんな活動をしていますか？

今取り組んでいることは5つあります。
①上西地区での現代サーカスAIR（アーティスト・イン・レジデンス）です。高松に拠点を置く瀬戸内サーカスファクトリーと協働して、地元の文化を現代サーカスに昇華させるような場所に来たいなと思っています。
②ガソリンカー復元事業は塩江美術館の学芸員さんと一緒に、香川大学創造工学部や香川高専の学生と地域の方を繋ぎながら、塩江の歴史の中で、華やかな記憶のハブとなっているガソリンカーを復元させるというものです。復元といったも実物を作ることに固執せず、演劇やインスタレーションなどを



視野にいれて、往時の風景を再現することを目標にしています。

③上西地区の「いざ里山」市民活動支援事業では内場ダム周辺の山林を山遊びのできる里山として蘇らせようと、地元住民と山林整備を行っています。

④休耕田を利用したハーブ園では主にラベンダーを栽培していて、5年〜10年先に塩江産エッセンシャルオイルを売り出すという野望があります。

⑤最後に地元のお祭りの手伝いで。塩江は催しの多い場所、そのお手伝いをするので地元の人たちとの繋がりが関係、維持していけたらと思っています。

今後どんなことをしていきたいですか？

いま塩江町の現状は底を打つていて、明るい話ばかりではありません。でも住んでみると豊かな森林が支える多様な「場」と、そこから生まれる「文化」があります。私の活動は多岐に渡っていますが、基本的にはその「場」と「文化」を繋いだり、蘇らせたり、保存したりするお手伝いというスタンスです。
この方向性を維持しながら、全ての活動をうまくリンクさせて、塩江を少しでも浮上させることができればと思っています。

profile

村山 淳

歴史学、言語学などを通して様々なものの「境界」を考えてきた人文学研究者。高校まで福島県に在住し、大学進学を機に東京へ。スコットランドへの留学を経て大学院進学。卒業後、妻とともに塩江へ移住。趣味は読書とハーブ（竖琴）とテレビゲーム。スコットランドゲール語で歌も歌う。

【活動内容】

ハーブ栽培、廃校利用、観光振興、ルポルタージュ作成

出身地：福島県いわき市
活動地域：高松市塩江町
活動開始年月：平成29年8月



地域のイベントで披露した特技であるハーブ（竖琴）で人々を癒す。



後世に塩江の魅力を残すべく、ルポルタージュ制作取材で地域の方々の人生や日常をFBなどで発信している。言葉を大事にしてきた村山さんならではの文章には心打たれる記事が多い。得意とする英語でも発信し、英語の塩江の情報を増やしたいと言う。



地元の人を喜ばせることができるよう、瀬戸内サーカスファクトリーなど塩江の外の人の知恵も借りる。



上西地区での山林整備では、山に詳しい地元の方から伐採に関する知識やチェーンソーの使い方など技術も学んでいる。

主に英語・中国語の通訳、翻訳、地域団体のサポート、地元の祭り・イベント、デザインの手伝い、観光情報発信、中国語語学研修、地場産品の海外へのPRなどのサポートと、台湾の文化を紹介する活動を行っています。具体的には、琴平中学校と姉妹校である台湾の瑞芳中学校の教育文化交流をするために、語学研修や通訳、琴平町と台湾新北市瑞芳

どんな活動をしていますか？

一度琴平に遊びに行つて、東京にはない魅力をたくさん発見しようと思つていたところ、ちょうど琴平町で「国際交流」という私にぴったりなミッションでの募集があったので、応募しました。

学生時代に台湾から東京に留学してコミュニケーションデザインにおける地域活性化や地域ブランドの研究をしたあと、グラフィックデザインやWEBデザインの仕事で働いていました。都内での生活が忙しく、自分の暮らし方を改めて見直したい、これまで学んだことや今までの経験を実際に地域に生かしたいと考えていたときに、琴平町に住んでいる友人から地域おこし協力隊のことを聞きました。

協力隊になつたきっかけは？

区との友好交流協定に関するサポートをしています。

また、今年から琴平町観光大使にも任命され、4月には「四国こんびら歌舞伎大芝居」のお練りに参加するなど琴平町の観光PRもしています。地域おこしとして「ゴール」がないのが難しいところですね。通訳に関しては、お互いの言葉をただ直訳するのではなく、文化の違いも考えて上手くコミュニケーションが

取れるように色々工夫しています。大変なときもありますが、無事友好協定が締結できたので、これが重要だと思つています。

生活面に関しては、「暮らし方を見直したい」と思っていたので、町内を歩いたり、本を読んだり、協力隊になつてから自分と向き合う時間が増えたのは、大きな変化でした。また、町内には台湾人があまりいないのですぐに覚えてもらえるし、琴平は台湾人観光客も多いから地元の方が台湾人と中国人の違いを理解してくれていて、台湾に対する理解があるのも有難いです。イベントで台湾茶を紹介したときも声を掛けてもらえて、こういう小さい町でも国際交流に繋がっていると感じられるのは嬉しいですね。

今後どんなことをしていきたいですか？

今年の5月に琴平町は新北市瑞芳区と友好協定を締結したので、中学生同士の交流だけでなく、これからは観光、産業、伝統工芸、文化など幅広い分野での交流や海外進出などをサポートしながら、中国語の語学研修や通訳などを行い、日本と台湾の架け橋になれたらいいなと思つています。

また、町の良さや特徴を掘り起こしながら、私が経験してきたデザインを通して、琴平町の地域イメージや地域ブランドを形成していきたいです。



4月に開催される「四国こんびら歌舞伎」で観光大使デビューを果たした陳さん。



地域のイベントで台湾茶試飲を提供。台湾の文化を知ったり国際交流ができるのが楽しいと地元の方にも喜ばれている。

今年5月に琴平町は新北市瑞芳区と友好協定を締結したので、中学生同士の交流だけでなく、これからは観光、産業、伝統工芸、文化など幅広い分野での交流や海外進出などをサポートしながら、中国語の語学研修や通訳などを行い、日本と台湾の架け橋になれたらいいなと思つています。

また、町の良さや特徴を掘り起こしながら、私が経験してきたデザインを通して、琴平町の地域イメージや地域ブランドを形成していきたいです。

今年5月に琴平町は新北市瑞芳区と友好協定を締結したので、中学生同士の交流だけでなく、これからは観光、産業、伝統工芸、文化など幅広い分野での交流や海外進出などをサポートしながら、中国語の語学研修や通訳などを行い、日本と台湾の架け橋になれたらいいなと思つています。

また、町の良さや特徴を掘り起こしながら、私が経験してきたデザインを通して、琴平町の地域イメージや地域ブランドを形成していきたいです。



友好協定締結式での通訳。日本と台湾の文化背景も考慮しながらの難しい役目だが、双方のコミュニケーションが円滑に取れるよう伝え方には気を付けているという。



友好交流の一環で行われている台湾へのホームステイに備え、琴平中学の生徒さん向けに中国語研修を実施。



友好交流協定締結
台湾
香川県琴平町 × 新北市瑞芳区
台湾新北市瑞芳区與香川縣琴平町締結友好交流協定
Friendship Agreement between Kotohira Town, Kagawa and Ruifang New Taipei City, Taiwan
2018年5月31日

琴平町
kotohira
陳芳如

— 台湾と琴平を繋ぐ —

profile
陳芳如 / チン ファンジュ
地域活性化に関する研究をしたのち、デザイナーとして東京のデザイン会社、IT関連会社に勤務。趣味は写真、美術鑑賞、映画鑑賞、デザイン、ドライブ、水泳など。

【活動内容】
国際交流(台湾との友好協定関連)、観光振興、情報発信

出身地：台湾桃園
活動地域：琴平町
活動開始年月：平成29年8月

佐柳島

sanaojima

村上 淳一・村上 直子

— 島に人生を掛ける —



廃校になった旧佐柳島小学校を利用してネコノシマ Hostel を開業。ちょうど島の中心にあり、地元島民の方と観光客の交流の場にもなっている。



所属する政策観光課の安藤さんは隊員と定期的にコミュニケーションを取り、なんでも話せる雰囲気を作ってくれる頼れる担当者。



日頃から地元の方とお話しながら情報を集め、島にある様々な課題の解決に向け活動している。



の研究など、島民と島外からの人の交流も生まれています。 Hostel 自体は副業ですが同じ場所で協力隊業務として地域貢献もできている感じです。有難いことに Hostel ができてから各種メディアにも取り上げていただいて、「佐柳島」「猫の島」「多度津町」という知名度も上がっているのが嬉しいです。僕らのイメージで良くも悪くもなると思うので普段から気を引き締めています(笑)

また、船着き場でのチケット販売もしているのですが、島内の人はほとんど多度津町本土に買い物に出るので、そこで地域の方とお話して色々情報が入ってきて地域の問題も把握できるのでとても重要な役割だと思っています。他には、猫の撮影にきた写真家やメディアの方の案内やサポートをしたり、観光客向けに猫のマナーに関する看板を設置して注意喚起をしています。また、実際に住んでいる私達だからこそわかる情報を盛り込んだ「佐柳島マップ」を現在作成中で、隣の島の「高見島マップ」も作る予定です。

今は、島暮らし体験ができるよう

準備中です。実際に自炊したり、船で多度津町まで買い出しに行ったり、実際の島暮らしでは不便な面も気になると思うんですけど、僕らはそれもどう楽しむかを知っているのでフォローもできますしね。島暮らしは大変ですが、そこを楽しめるかどうか重要です。

今後どんなことをしていきたいですか？

多度津町や佐柳島のお土産を作りたいと思っています。佐柳島や多度津町に関係するいろんな企業やお店とオリジナル商品を開発中です。また、島民が今の状態を維持して楽しく暮らしていけるようにフォローしたり支えたりしていきたいですね。観光向けに島の中に Wi-Fi とか新しいものをつくるというよりは、この何もない状態を維持していくことが「非日常感」を味わえるという意味でもこの島にとっては良い気がしています。島民が生き生きしている観光客との交流も生まれて、結果的に観光振興にも繋がっていくと思うんですよ。

協力隊になったきっかけは？

父の実家が佐柳島で、幼い頃からよく夏に遊びに来ていたので馴染みがあり、実家が大阪に移ってからもこの島に泊まる場所があればいいなあと思っていました。父の母校が廃校後そのまま放置されているのを知ってから「この小学校をリノベーション」して泊まる場所にできないかな」と妄想していて、大阪人的なノリで企画書を作ってみたんです。そしたら意外と本当にいけそうだったなって(笑) そんなときにちょうど大阪で開催された移住セミナーに多度津町役場が出展していて、相談してみたらトントン拍子に話が進んでいったんです。それまでは大阪で映画専門古書店を営んでいたのですが相談してから移住するまで半年もかからなかったですね。本当に佐柳島に来て良かったと思っています。後悔は全然していませんし、人生を掛けるに値する島やなっていますね。

どんな活動をしていますか？

廃校になった小学校を活用して「ネコノシマ Hostel」をオープンしたことで、地域の方とのコミュニケーションの移住を希望する方がいらしたときは相談に乗り、視察の受入れ、大学

profile

村上 淳一

大正時代から続く古書店での丁稚を経て、映画関連古書店を独立開業。趣味は妄想。

【活動内容】 離島振興、移住促進、地域コミュニティ支援

出身地：大阪府

活動地域：多度津町佐柳島 活動開始年月：平成29年4月

村上 直子

京都精華大学デザイン学科卒業。百貨店の装飾にてデザインとディレクターを担当。趣味は写真。

【活動内容】 離島振興、情報発信・PR、デザイン

出身地：大阪府

活動地域：多度津町佐柳島

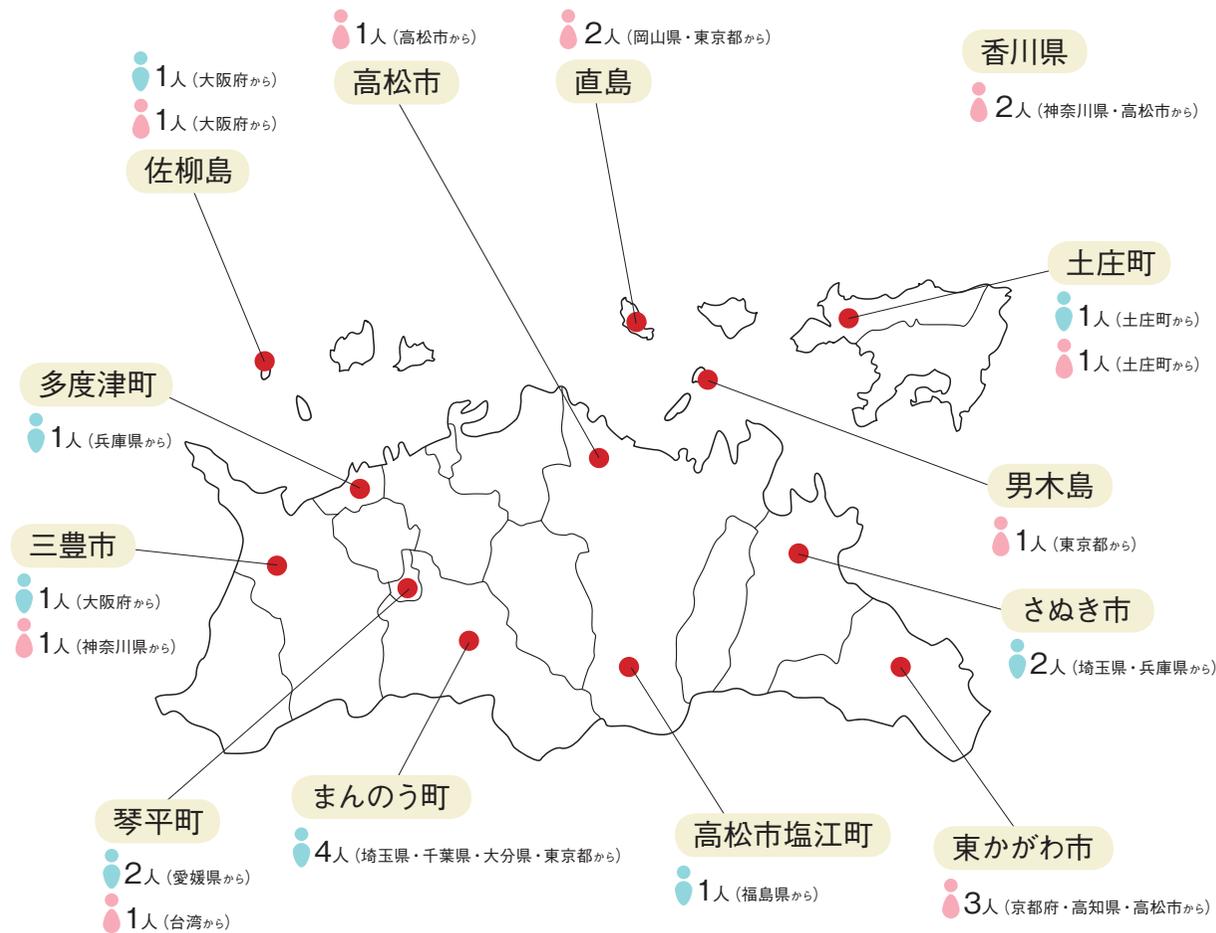
活動開始年月：平成29年4月



直子さんがデザインした猫マナーの注意喚起の看板と町の移住促進のチラシ。読む人が手に取りやすくなりやすいデザインを心掛ける。

地域おこし協力隊の活動場所

今回、紹介した市町の他にも、地域おこし協力隊を受け入れている地域があります。各地で活躍する彼らの様子は次号以降で紹介していきます。(平成30年8月1日現在)



香川県内の地域おこし協力隊公式ページ一覧

(2018年8月1日現在)

高松市 高松市地域おこし協力隊 (小瀧)	高松市塩江町 塩江温泉地域おこし協力隊 (村山)	高松市男木島 ブログ 男木と献立 (石部)	さぬき市 さぬき市地域おこし協力隊 (石原・吉川)
東かがわ市 東かがわ市地域おこし協力隊 (坂本・大西)	三豊市 香川県三豊市地域おこし協力隊 (村山)	土庄町 なぎさの島生活 (須藤)	直島町 NAOSHIMA COLORS (平松・本橋)
琴平町 琴平町地域おこし協力隊 (山崎・近藤・陳)	多度津町 多度津町タウンプロモーション ~たどりつく多度津~ (日根野・村上)	県内女性協力隊連携事業 カガワ・デ・アチコチ (小瀧・須藤・吉田)	香川県 さぬきの輪WEB 隊員名簿 (神高・吉田)

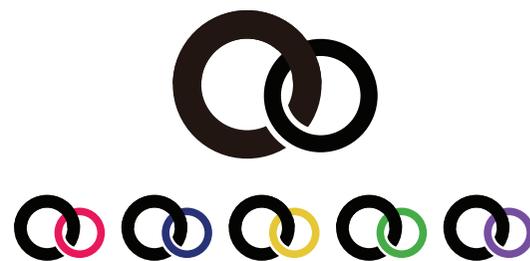
あとながき

“協力隊で人生の可能性を広げる”

今回の特集は、地域おこし協力隊の任期を終えた「OB・OG」。これまでどんな想いで、どのような活動をして、どのような未来を描いてきたのか。単なる移住ではなく、協力隊活動を通して人脈を広げ、人生の可能性を広げてきた先輩方から学ぶことは多いです。昨年実施した現役隊員とOB・OGとの交流会は今後も定期的に開催予定なので、県内外でのネットワークが広がっていったら良いと思います。「さぬきの輪WEB」の隊員名簿にOB・OGの項目も作っているので、ぜひ御覧ください。協力隊の想いを丁寧に伝える「さぬきの輪TIMES」は少しリニューアルし、隊員それぞれの言葉でよりリアルに伝えていけたらと思います。全国で「6年後に8,000人」という目標が総務省で掲げられている地域おこし協力隊。2018年8月1日現在、香川県には26名の隊員が県内各地でそれぞれのスキルやアイデアを活かして活動しています。今更ますます多様性が見られる地域おこし協力隊を、これからもよろしく願いいたします。最後に、お忙しいところ本誌制作にご協力いただきました地域おこし協力隊のOB・OGと現役隊員の皆様、心より御礼申し上げます。

吉田 恵

ロゴについて



大きな輪は地域を、小さな輪は地域おこし協力隊を表しています。それぞれが個性的で多様性に富んだ協力隊の輪はカラフルで、決まった色はありません。その時々で色が変わります。大きな地域の輪に、小さいけれど多様でカラフルな地域おこし協力隊の輪がつながることで、さらに豊かで活き活きとした香川県になってほしいという思いが込められています。

地域おこし協力隊 活動報告

さぬきの輪 そろばん教室

「予算っていつ決まるの?」「活動費ってどんなことに使えるの?」「とにかく行政の予算って分かりにくい……」そんな地域おこし協力隊の声にお応えすべく「さぬきの輪そろばん教室～みんなで考える協力隊の予算～」を年に一度開催しています。



さぬきの輪 TERACOYA

地域おこしに必要な知識・スキルの取得を目指した研修企画。地域と協働するために大切なスキルを中心とした学びの場です。



さぬきの輪 OB・OG

徐々に香川県でも増えてきたOB・OG。任期後も今まで築いてきた協力隊ネットワークを活かしていけるよう連携事業や交流会を企画しています。





さぬきの輪

さぬきの輪TIMES

OB・OGと6冊目

2018年8月発行

発行：香川県庁地域おこし協力隊
〒760-8570 香川県高松市番町4丁目1番10号

TEL：087-832-3105 FAX：087-831-1165

MAIL：chilik@pref.kagawa.lg.jp